

設問

[問い合わせ 1]

事例 I では、CLのこれまでの経験について質問をすることで語られた仕事においてコミュニケーションが大事というCLの自己概念に好意的関心を示すことなく、適性や経験も必要というCCTのものの見方に基づき問題解決を図るような応答をしている。このため、CLとの信頼関係も築けていないと思われる。一方、事例 II ではCLのワクワクする、文具が好きといった感情に好意的関心を示し、焦点を当てて問い合わせることにより、CLの自己探索が始まっている。そして、コミュニケーションより大事なことに気づきを与え、さらに問い合わせることでCLの自己概念に変容が生まれている。

[問い合わせ 2]

事例 I の CCT11 (相応しい・相応しくない)

理由：仕事ではコミュニケーションが大事というCLの考えを具体性のないことと否定的に応答し、CCTの意見を一方的に提案しており、その後CLの納得も得られていないため。

事例 II の CCT11 (相応しい・相応しくない)

理由：文具が好きという仕事へのモチベーションがコミュニケーションよりも大事だとCLに問い合わせている。それによりCLの自問自答が始まり、その結果CLに新たな気づきも生まれているため。

[問い合わせ 3]

CLは今まで「時間をかけて」、「コミュニケーション」を大切にしながら仕事をしてきたが、オンラインになり苦手意識を持ち、周りから「ぎこちない」と指摘され自信をなくして自己効力感が低下していると見受けられる。また、これまでのようフェイストゥフェイスではなくオンラインで周囲ともコミュニケーションをとる連携しなければならないことから不安を抱えている。さらに仕事のモチベーションが何であるかを気づけていなかったことから、自己理解も不足していると思われる。

[問い合わせ 4]

まずは、傾聴する姿勢を続け、信頼関係の構築に努めていく。そして、これまでの仕事についてお話を伺い、CLの仕事に対する思いや成功体験などについて振り返ってもらう。それにより、自己効力感を高めてもらい、CL自身の行動変容を促す。また、コミュニケーションより大事だと思うことの優先順位について整理することで、自己理解を深めてもらう。そのうえで、CLが新プロジェクトをやり遂げるためには何が必要で、何が出来るかと一緒に考える。以上により、それに向けた具体的な行動計画を立案し、CLが前向きに新しいプロジェクトに取り組んでいけるように支援していく。

設問

[問い合わせ]

事例ⅠはCLの「人間関係を何よりも重視との感情」に寄り添うことなく、CCtのもの見方で仕事には「適性や経験も必要」と決めつけた応答をしている。「具体性のない」や「使命」、「果たせることを前提に決断」とCCtが主導で問題解決しようとしない点、信頼関係が築いていない。一方、事例ⅡではCLの「好きな文具の可能性を広げたいとの想い」に「一般的関心」をもち応答している。CLIIでは先づかけた仕事に対するモチベーションに対して気づき、新しいプロジェクトや悩みで、気持ちに自己探索が始まり、内省が促進している。

[問い合わせ]

事例ⅠのCCt11 (相応しい・相応しくない)

理由: CLの気持ちに寄り添うことなく、「具体性のないこと」や「プロジェクトの使命」とCCtのもの見方や経験などから決断されてはと助言している。そのため、信頼関係を築けていないため。

事例ⅡのCCt11 (相応しい・相応しくない)

理由: CLの「文具が好きな」という気持ちに焦点をあてる応答をしている。そして仕事のモチベーションに対してコミュニケーションより何が大事なのか? CLの中で自問自答がはつきり内省が進んでいる。

[問い合わせ]

CLは今まで「時間かけて」「コミュニケーションを大切に」仕事をしてきたところから、オンラインになり普段で周りから「まじめ」との指摘にあり自信もなくして、自己灰心感が強くなっている点。非プロジェクトに対してやりたいとの気持ちはあるもののコミュニケーションが大事との思い込み不安を持ちており、仕事のモチベーションが何であるかを忘れて、自己理解が不足していると見受けられる。以上が現時点でのCLの問題点だと思われる。

[問い合わせ]

新規プロジェクトに対して不安に思っている想いに寄り添いつながら、傾聴を続けて信頼関係を深めていく。その上でCLの今までの仕事を相手にしやすく生き、これまでの仕事に対する想いや成功体験を思い出しに自己灰心感を高めもらう。そして新しいプロジェクトに対して「ワクワク」というCLの気持ちに対しても文具が好きなことという気持ちに対して、自分の中でコミュニケーションより何が大事なのかを考え一緒に考えて自己理解を深めもらう。CLが今後の仕事に対して前向きな気持ちでとり組めるよう支援する。

設問

事例1では、CLのこれまでの経験について質問をすることで語られた仕事においてコミュニケーションが大事というCLの自己概念に好意的関心を示すと共に、適性や経験も大事というCCTのものの見方に基づき問題解決をはかるよう応答をしている。一方、事例2ではCLのワクワクする、文具が好きといった感情に好意的関心を示し、焦点を当てて聞いてくれることにより、CLの自己探索が始まっており、コミュニケーションより大事な事に気づきを与えていている。そして更に健康を続けることで新時代に気づきも生まれている。

[問い合わせ1]

事例1の CCT11 (相成りし・相応しむる)

仕事ではコミュニケーションが大事というCLの自己概念を具体性のないことと否定的に応答し、CCTの意見を一方的に提言しており、その後CLの納得も得られていないから。

事例2の CCT11 (相成りし・相応しむる)

理由 文具が好きといいう仕事へのモチベーションがコミュニケーションより大事と気づいてCLに更に聞いてくれることにより CLの内省が促され CLに新時代気づきも生まれているから。

[問い合わせ3]

CLは新商品開発のプロジェクトをまとめよう打診を受けている。しかしこれまでに高付加価値の商品をとても短い期間で開発してみたりはアラズ“お高嶺に満足する”商品が出来ると不満を感じている、このから打診新商品プロジェクトに対する理解不足が伺える。またこれまでのようにフェーストゥフェイスで詳しくオンラインで周囲ともコミュニケーションをとる連携が叶わないと感じているが、この点で自己理解不足もあると思われる。

[問い合わせ4]

まず新商品開発のプロジェクトについて話を伺い、そのプロジェクトの内容について整理をしてもらおう。オンラインのプロジェクトについてのCLの思いやこれまでの経験についてもお話を伺い、CLの仕事に対する価値感や強みなどについても改めて振り返ってもらい整理をしてもらおう。その上でCLが新プロジェクトをやり遂げるためには何が必要で、そのために一緒に立ち、それを向けて行動計画を立て、いかが前向きに行動していけるよう支援していく。